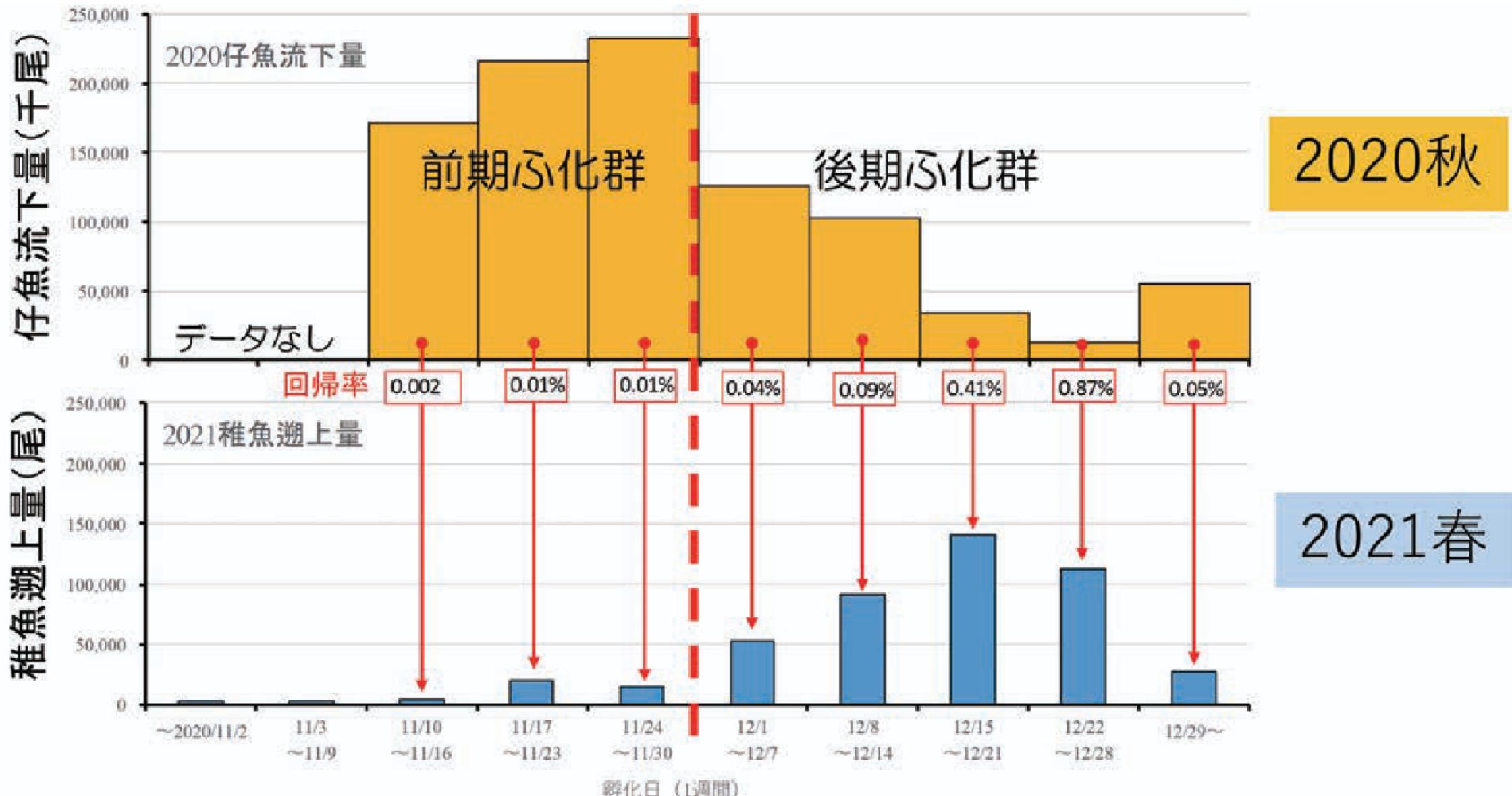


山梨県におけるワカサギ増殖 一Ⅲ

今後のワカサギ増殖に向けて

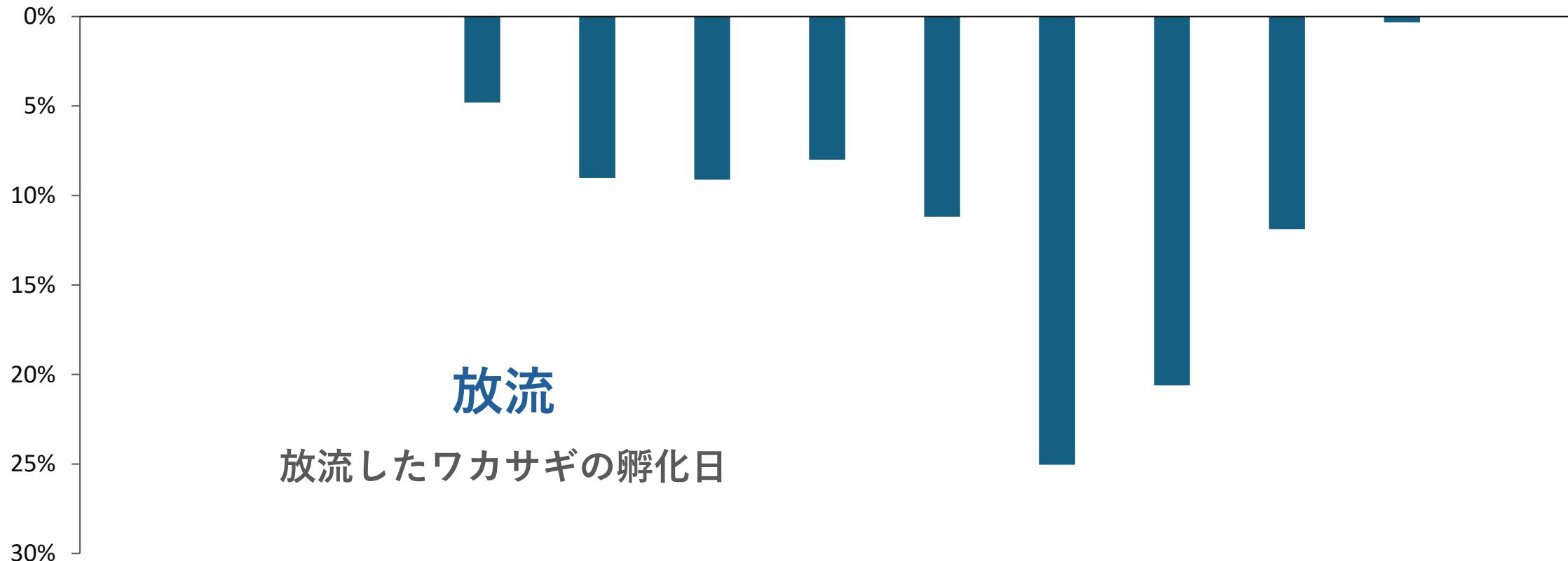
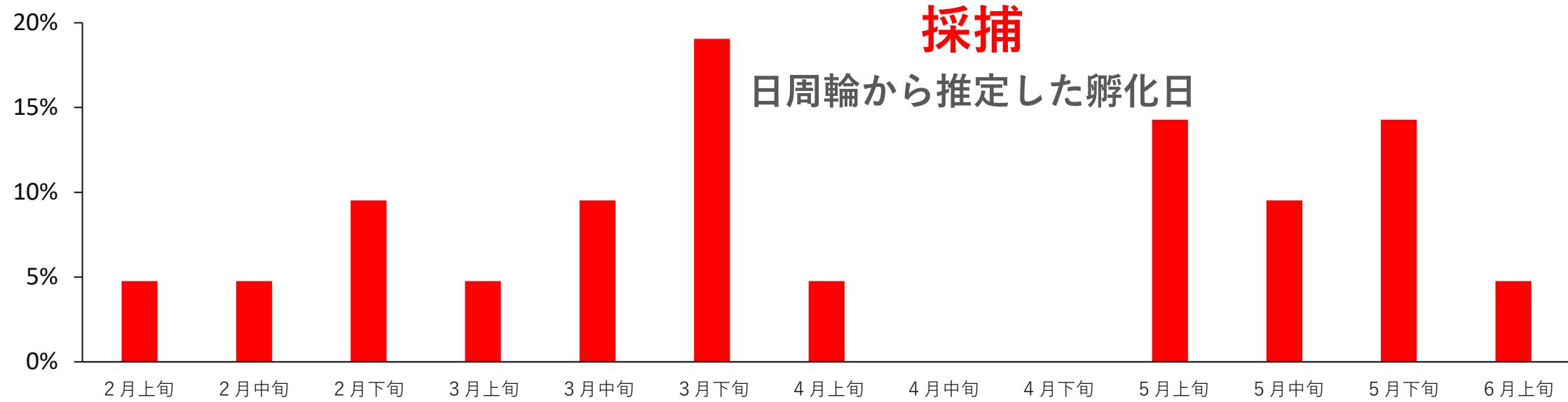
第28回ワカサギに学ぶ会
令和7年12月4日、12月5日
於：青森県水産ビル7階大会議室
山梨県漁業協同組合連合会
参事 大浜秀規

物部川におけるアユの仔魚流下量と稚魚遡上量 (2020-2021)



■ 物部川でのアユの仔魚流下量、稚魚遡上量及び回帰率

出典：水産庁HP
ボーズにならない！釣れるアユ釣り場づくり



ワカサギの誕生日 放流と採捕の違いから言えること

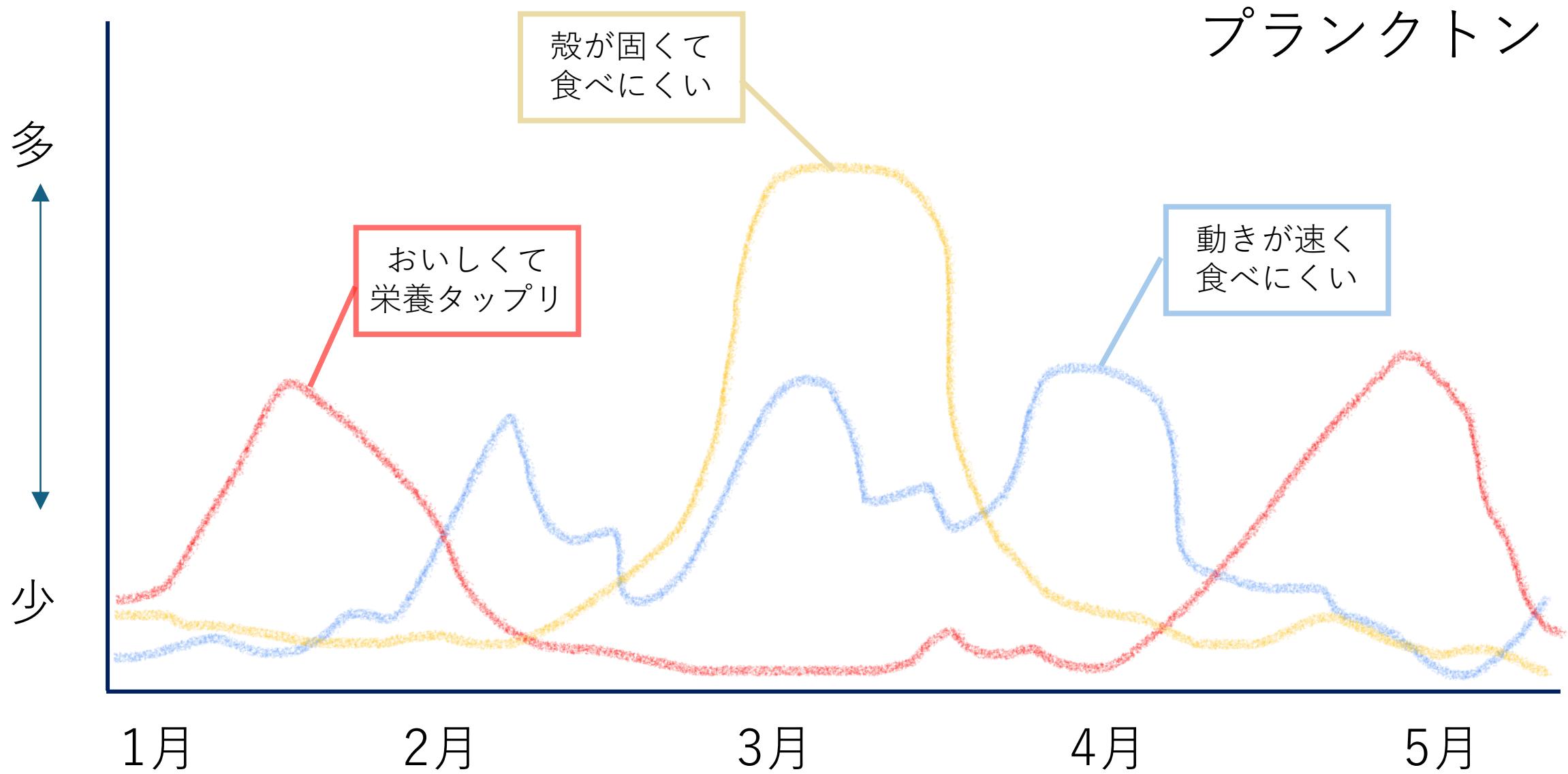
- ・自然産卵由来のワカサギがいる。
- ・自然産卵が、早い時期から遅い時期まで資源に添加している。
- ・増殖放流したワカサギが、生残しないときもあるみたい。
- ・日齢査定したワカサギは21尾だけなので、確定的なことは言えない。

ワカサギの誕生日 放流と採捕の違いが示していること

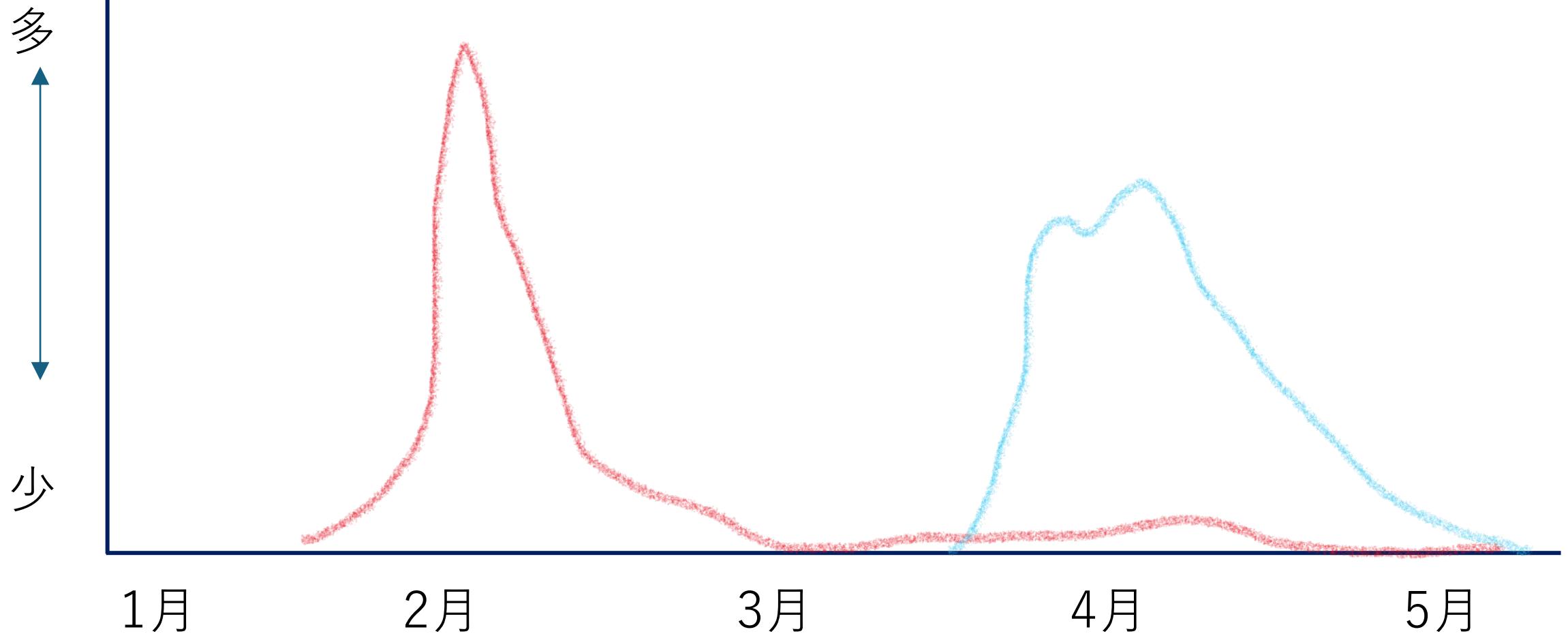
- ・ 河口湖では、自然産卵が資源に大きく貢献している。
- ・ 自然産卵は長期間（早くから遅くまで）、広範囲に行われるので、資源安定のために効果的かつ重要。
- ・ 増殖放流は必要だが、自然産卵をできる限り保全・活用すべきである。

ワカサギの漁獲量はどうして決まる

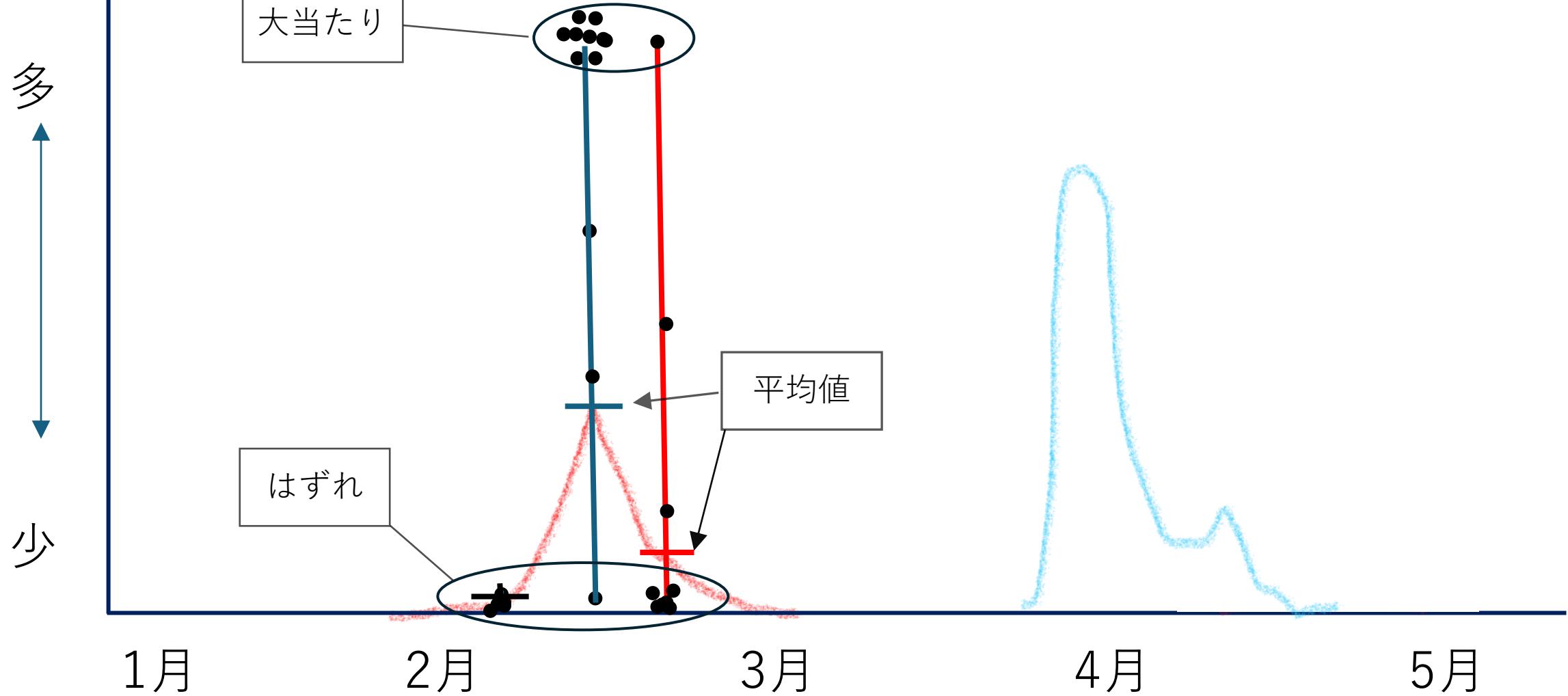
- 産卵 ← 親魚数
- ふ化 ← ふ化率（食害、水力ビ、干出）
- 生残 ← **飢餓**、食害、移動（流出）
- 漁獲 ← 漁場、漁獲圧、時期、漁具・漁法



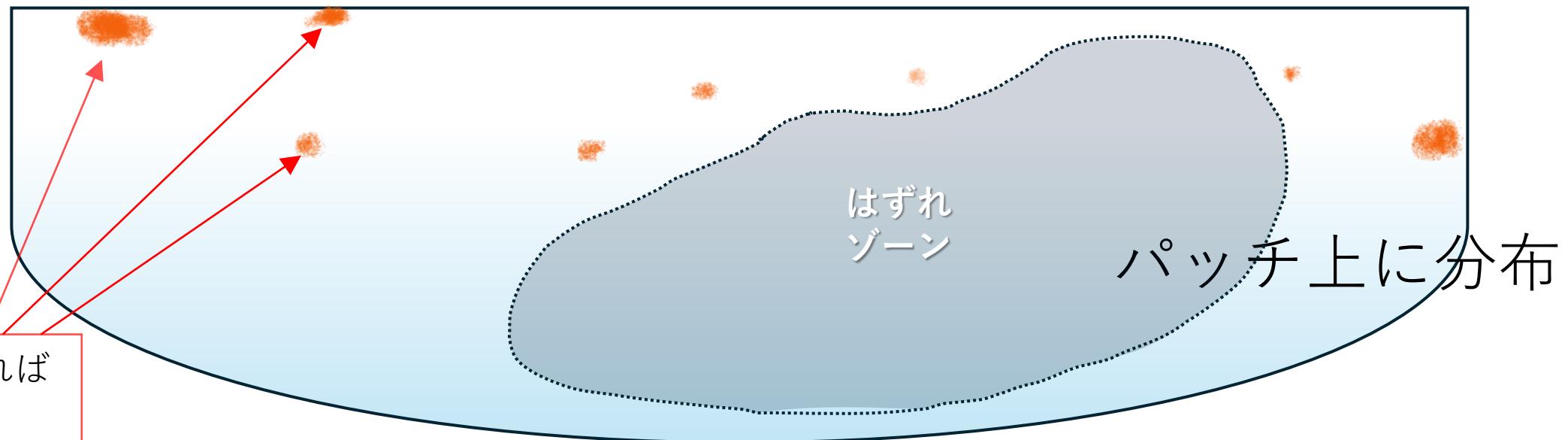
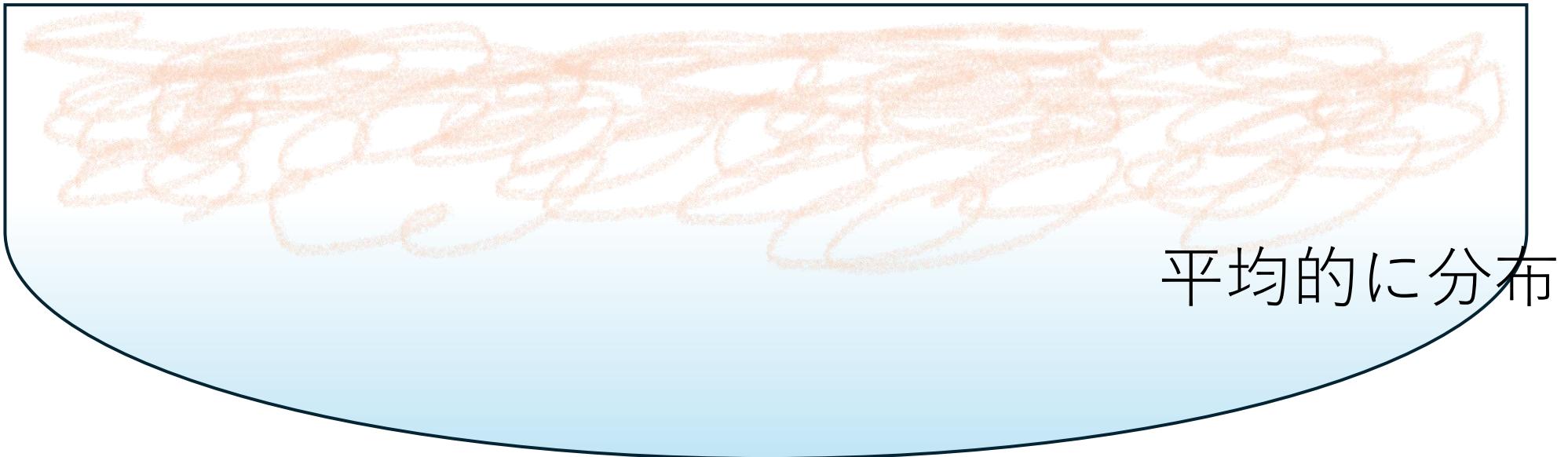
移植卵のふ化日



ワカサギの生残率



プランクトンの分布



今後の展開

ワカサギ資源を高位安定的に維持



①自然再生産の助長

→ 減水の回避、食害の低減、産卵場の造成、卵を回収し管理

②適切な時期に適当な数量の放流

→ 入手先を分散。複数回放流。（不安定でなければそのまま）

③自家採卵

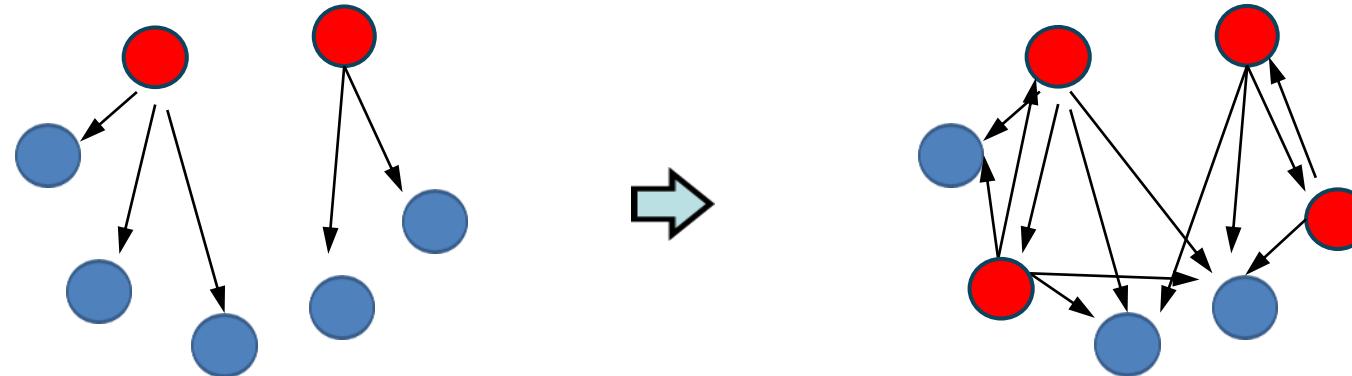
→ 可能性の検討 → 親魚の採捕 → 自家採卵の実施

将来的展開

ワカサギ資源を高位安定的に維持

確実に種卵が入手できるよう、ワカサギ種卵の供給湖沼を増やしネット

ワーク化を図ることが目標



「ワカサギ放流種苗協議会」

令和7年度 ワカサギ放流種苗協議会

令和7年1月23日(木)13:30
河口湖漁業協同組合2階会議室

<次第>

はじめに

今シーズンの釣果状況及び令和7年度増殖計画（各漁協）

卵消毒、試験研究に関する情報提供（水産技術センター）

今後のワカサギ増殖事業について（県漁連）

意見交換

<希望数量>

漁協名	入手先	数量(百万粒)	形態	時期
山中湖	網走	300	受精卵	3月
河口湖	網走	200	受精卵	3～4月
	西網走	200	受精卵	
芦ノ湖		100	受精卵	
西湖	河口湖	30	粘着性除去卵	3月
	芦ノ湖	10	粘着性除去卵	4月
精進湖	河口湖	20	受精卵	3月中旬
桂川	網走	3	受精卵	4月

<出席者>

山中湖漁協：組合長 天野三代治、理事 高村信雄

河口湖漁協：組合長 古屋和雄、専務理事 古屋清晴、総務理事 外川新吉職員 渡辺和成、磯辺武樹

西湖漁協：組合長 三浦 久

精進湖漁協：組合長 渡辺秀夫、理事 渡辺 充、監事 小林直彦

芦ノ湖漁協：組合長 福井達也、職員 結城陽介

水産技術セ：研究員 谷沢弘将

県 漁 連：参 事 大浜秀規

- 平成元年から

- 関係漁協 + 水技センター + 漁連
- 協議内容

種苗の供給

釣果状況

試験研究

情報交換

顔の見えるお付き合いが重要